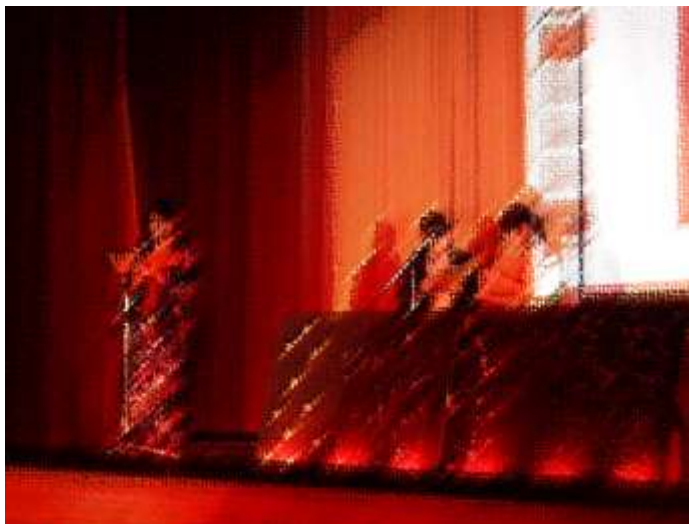


令和4年度 学芸会

一ま~い、
二ま~い……



中学校は、朗読劇で「番町皿屋敷」と「お菊の皿」を演じました。生徒一人一人が演者と裏方を行い、劇を陰ひなたに支えました。演じることと演技を支えることの二つの役割をとおして、お互いの劇を支え合い、成長する姿が見られました。



学芸会振り返り

午後の会場片付けのあと、音楽室で振り返りを行いました。振り返りでは、生徒一人一人が学芸会の演技と裏方の仕事について感想を述べました。行事をとおして、一回りも二回りも成長する姿を感じる場になりました。



学芸会への道のり



会場準備は、小学校5年生以上と中学生で行いました。小学生の手本となり、照明や舞台の準備、重いものをは込んだり、シートを貼り付けたりしました。

中学生の演目では、小道具や背景画も生徒が自分たちで作成しました。それぞれが分担して準備しました。





今年度は、タブレット端末をフル活用しました。練習の様子を動画で記録し、ジャムボードを使って練習の成果や課題を全員で共有し、毎回の練習をブラッシュアップさせました。また、練習の様子や監督・演出（音響・照明）・アート（背景画・小道具・衣装）の3チームの裏方の様子も適宜「学芸会 classroom」を活用し、記録しました。次年度以降のアーカイブも同時に完成しました。

